

考動・躍動・感動

一市民、一地域住民として

①『第28回尾張旭市民ジョギング大会』に参加して

26日(日)、森林公園で『尾張旭市民ジョギング大会』が開催されました。開会式では、柘植先生が市町村対抗駅伝のコーチとして紹介されました。今年で28回目を迎え、今年も市民を中心に2000人以上が参加しました。みんなの中にも個人で申し込んで参加した人もいれば、部活・クラブチーム単位で参加した人もいました。先生も息子二人と2kmコースに参加(今年で5年連続の参加)しましたが、とても気持ちの良い汗を流すことができました。

さて、みんなはこの大会を運営するにあたり、どれだけたくさんの方が、どれくらいの時間を費やしているか、考えたことはありますか。仕事として今回の大会の準備・運営に携わった



人もいれば、受付係やコース誘導係など、ボランティアとして当日の運営に協力した人もたくさんいたと聞きました。全て、参加する人が気持ちよく競技に参加できるように、日頃お世話になっている尾張旭市のために何か役に立てればという気持ちからだと思います。本当にありがたいことです。

②地域の公園掃除に参加して

子ども会主催で行った公園掃除。参加した人数としてはそれほど多くありませんでしたが、参加した人は落ち葉を一生懸命集めていました。特に溝にはかなりの量の落ち葉がありました。高学年が低学年の子にほうきの使い方を教えたり、一緒に声をかけたりしながら、協力して取り組んでいました。たくさんの保護者も参加し、1時間あまりの活動でしたが、ゴミ袋が30袋以上はたまり、公園と同時に、心もきれいになったのは先生だけでないはず。



③『昔の遊びに親しもう』(子ども会主催)に参加して

公民館で行われた行事。地域のお年寄りの方が、“囲碁”・“将棋”を教えてくださいました。最初にとっても分かりやすい説明をしてくださり、実際に“打って”みました。先生も小さい頃に、祖父母に囲碁を覚えてもらった覚えはありましたが、すっかり忘れており、子どもたちと一緒に説明を聞いていました。説明の後、子どもたちは試行錯誤しながら囲碁や将棋に取り組んでいました。普段とは違った“遊び”をする中で、子どもたちも心が落ち着いた時間を過ごすことができたことでしょう。



タイトルに『一市民として、一地域住民として』と書きました。今回は各行事に参加して見て感じたことを書きましたが、日々の生活の中でも一市民として、一地域住民としてできることはたくさんあります。今の社会は、『家庭・学校・地域』が協力していくことが求められており、それぞれの担う役割はとて大きくなっています。みんなも日々の学校生活で忙しいかもしれませんが、『市民として・地域の一員として』という意識をもって生活してみると、視野も広がっていきますよ。